

旭市は合併10周年を迎えました

合併10周年 新たなまちづくりのスタート



旭市長
明智 忠直

新しい旭市が誕生して10年が経過します。十年一昔といいますが、あつという間の月日の流れでありました。この合併10周年を迎えるに当たり、市民の皆さまをはじめ、多くの方々のご支援ご尽力にあらためて感謝を申し上げます。

1市3町が合併した旭市は「日本一住みよいまち」を目指し歩みを進めてきました。青い海、緑豊かな大地と発展する市街地、バランスの取れた産業。市内全域が一体感のある市へと成長した今、一つの市としての価値観を、市民一人一人が共有できているのではないかと感じているところです。

地方創生元年となる本年、本市は地域経済の再興に向け、人口減

少対策や旭中央病院の充実などを図りながら、地域の創生に向けた取り組みを開始しました。あらためて市の「宝」を見直し、さらにその資源を充実、発展させることで、将来にわたって住み続けたいと思えるまちづくりを進めていきます。

東日本大震災から5年。未曾有の被害を教訓にしながら、この10周年を新たなまちづくりのスタートとして位置付けていきたいと思っています。

合併10周年を迎えて



旭市議会議長
景山 岩三郎

合併10周年を迎えるに当たり、お祝いを申し上げます。

現在の旭市は、平成17年7月1日に旭市、海上町、飯岡町、干潟町の合併により誕生し、本年度10年が経過いたします。合併から今日に至るまで、小中学校の耐震補

強や建て替えをはじめ、市内の道路や公園の整備など、新市における社会資本の充実を図ってまいりました。

東日本大震災では、本市も大きな被害を受けましたが、その復旧・復興と併せ、各種事務事業が行われているところです。議会といたしましても、その事務事業に対して十分に審議し、旭市の発展、復興に市当局と共に努めてまいり

ました。

また議会においては、合併時より議会改革を進め、定数の削減や議会機能の一層の充実強化を図るとともに、本会議のインターネット配信や委員会の公開など、市民に開かれた議会の実現に努めてまいりました。

今後市民の皆さまが安全で安心して住むことができるまちづくりを目指し、市当局と議論を交わしながら、20年後、30年後の旭市の発展に努めてまいります。

旭市・海上町・飯岡町・干潟町が合併
7月1日新「旭市」誕生



旭市開市式

平成17年7月1日、旭市・海上町・飯岡町・干潟町が合併し、新しい「旭市」が誕生しました。合併から10年。本市は「ひとが輝き 海とみどりがつくる健康都市 旭」を将来都市像に掲げ、まちづくりを進めてきました。本号では、合併10周年の節目を迎え、旭市誕生から10年の足跡を振り返ります。

1 新旭市のスタートを飾る開市式が市役所玄関前で行われた

旭市合併10年のあゆみ



波音と潮風が届く海辺の立地が魅力



「日本一住み良いまちを目指して」伊藤忠良氏が旭市長就任

大原幽学ゆかりの水田で田植え体験



新市の門出を盛大に祝った



平成9年4月にオープンした総合体育館。100万人目の利用者を祝う



名誉市民顕彰式で称号記を受ける飯島重雄さん



3会場で行われた産業まつりに合計126,000人が来場

- | | | | | | |
|--|---|--|--|--|---|
| <p>11月
内装に木材をふんだんに使用した旭第二中学校が竣工</p> <p>8月
飯島果穂さん(中央小6年)が陸上女子100mで全国大会優勝</p> <p>7月
あさひ健康パーク内に全18ホールの公認コースを備えたあさひパークゴルフ場がオープン</p> <p>7月
飯島重雄さんが新市初の名誉市民に選ばれ、顕彰式を開催</p> <p>11月
第1回中学校合同文化祭が中学生の提案により実現</p> | <p>7月
旭市・海上町・飯岡町・千潟町の合併で新旭市が誕生</p> <p>10月
新旭市の初代市長に伊藤忠良氏就任</p> <p>12月
旭市合併記念式典が挙行政され、市章・市の花「ツバキ」・市の木「クロマツ」が決定</p> <p>11月
合併後初の市議会議員選挙で在任特別議員70人(欠員1)が26人に</p> | <p>6月
子育て支援スペース、つどいの広場オープン</p> <p>8月
総合体育館の利用者が100万人を突破</p> <p>11月
産業まつりが3つの会場で開催され、地元産品などを求める人で大にぎわい</p> | <p>3月
海上中学校が竣工。各学校の耐震化も順調に進む</p> <p>4月
日本一住みよいまちを目指して、総合計画に基づくまちづくりがスタート</p> <p>5月
田植えから収穫を通した都市住民との交流を目的に「幽学の里で米作り交流事業」がスタート</p> <p>7月
旭市初の水産まつり「いいおか港・水産まつり2007」開催</p> | <p>3月
海上中学校が竣工。各学校の耐震化も順調に進む</p> <p>4月
日本一住みよいまちを目指して、総合計画に基づくまちづくりがスタート</p> <p>5月
田植えから収穫を通した都市住民との交流を目的に「幽学の里で米作り交流事業」がスタート</p> <p>7月
旭市初の水産まつり「いいおか港・水産まつり2007」開催</p> | <p>7月
旭市・海上町・飯岡町・千潟町の合併で新旭市が誕生</p> <p>10月
新旭市の初代市長に伊藤忠良氏就任</p> <p>12月
旭市合併記念式典が挙行政され、市章・市の花「ツバキ」・市の木「クロマツ」が決定</p> <p>11月
合併後初の市議会議員選挙で在任特別議員70人(欠員1)が26人に</p> |
|--|---|--|--|--|---|



選手と応援を含め約5,000人が参加した第1回旭市民体育祭



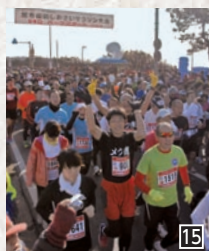
熱戦が展開。会場は連日歓声と熱気に包まれた



「ふれあい まごころ 思いやりの市政を」
明智忠直氏が旭市長就任



温かいまなざしで被災者にお声掛けする天皇后両陛下



海辺のコースを力走するランナー



旭中央病院新本館



平成23年3月11日17時13分ごろ、飯岡漁港を襲う津波

平成24年
1月 「心をひとつに 共に進もう復興あさひ」をスローガンに、旭市復興計画を策定
2月 「津波を乗り越え復興への道」をスローガンに、第23回旭市飯岡しおさいマラソン大会が開催¹⁵

5月 旭中央病院新本館での診療がスタート¹⁴
8月 鈴木夢さん(旭二中3年)が女子砲丸投げで全国大会優勝復興を祈願し「のぼる旭 祈りを込めて」をテーマに、第57回旭市七夕市民まつり開催

4月 天皇后両陛下が旭市を慰問。温かいお言葉に被災者感激¹³
大相撲幕内力士が飯岡小学校避難所を慰問し、横綱白鵬関らが被災者と交流

平成23年
3月 東日本大震災発生。市内でも津波、液状化、福島原発事故により甚大な被害が¹²

9月 ゆめ半島千葉国体卓球競技会が旭市で開催(10月)¹⁰
10月 第1回旭市民体育祭に5,000人が集結¹¹

平成22年
4月 子ども手当と乳幼児紙おむつ購入券支給で、子育て家庭を応援

12月 定数改正後初の旭市議会議員選挙が行われ、議員22人が決まる
10月 総合体育館で全日本卓球選手権大会団体の部が開催され、翌年開催の国体への気運高まる

平成21年
7月 旭市長選挙で明智忠直氏が当選し、明智市政がスタート⁹
大原幽学自筆とみられる文書などが発見され、資料58点を公開



桜まつりで初登場したあさピーと遊ぶ子どもたち



震災から2年ぶりに復活し、ダブル受賞



約500人が参列し、犠牲者の冥福を祈った



海拔約13m、定員100人の津波タワー(飯岡体育館駐車場)



旭市いいおかYOU・遊フェスティバルでの花火大会



4年ぶりに再開されたプールに子どもたちの笑顔が



委嘱状を手にする椎名佐千子さん

11月	8月	7月	4月	3月	平成26年	11月	10月	6月	5月	4月	3月	平成25年	12月	10月	7月	3月
旭市「道の駅」、来秋オープンに向け建設工事始まる	優勝 杉村奏笑さん(旭二中3年)が女子走り幅跳びで全国大会	「旭市宮海浜プール」4年ぶりに再開 「旭市防災資料館」オープン。東日本大震災の記憶を後世へ	災害公営住宅に被災者が入居し新たな生活が始まる 第3子以降の保育料無料化で、子育て世帯の経済的負担軽減へ	飯岡地域の保育所が統合し「旭市立いいおか保育所」開所	東日本大震災三周年 千葉県・旭市合同追悼式開催 飯岡地域の保育所が統合し「旭市立いいおか保育所」開催	業高校が優勝	旭中央病院開院60周年記念式典開催 第21回高校生ロボット相撲全国大会の自立型で、東総工業高校が優勝	「旭市観光大使」第1号に、歌手の椎名佐千子さん	津波避難タワー完成、地域住民に公開	旭市イメージアップキャラクター「あさピー」お披露目会であさピー初登場	東日本大震災二周年 千葉県・旭市合同追悼式開催 第17回ふるさとイベント大賞で、あさひ砂の彫刻美術展が優秀賞、復興応援特別賞を受賞 旭市イメージアップキャラクター「あさピー」お披露目会であさピー初登場	あの日から1年。東日本大震災一周年 千葉県・旭市合同追悼式開催	旭の夏の海岸イベントが復活 旭市イメーリアップキャラクターが「あさピー」に決定。選ばれたのは、最優秀賞の馬淵絢加さんの作品	旭市イメーリアップキャラクターが「あさピー」に決定。選ばれたのは、最優秀賞の馬淵絢加さんの作品	旭の夏の海岸イベントが復活	あの日から1年。東日本大震災一周年 千葉県・旭市合同追悼式開催